特集

順天堂学祖佐藤泰然生誕200周年記念講演会
泰然の現代性と先進性—医、そして「仁」

順天堂医学, 2005, 51
P. 283

今、なぜ「仁」か*

樋野 興 夫

OKIO HINO

司会【順天堂大学医学部長木南英紀】 それでは、本日の講演会の締めとしまして、佐藤泰然200周年記念を立案しました、病理学の樋野教授から「今、なぜ仁か」というお話をいただきまして、閉会したいと思います。

『今、なぜ「仁」なのか』：むしろ10年前には語るのとはばかられたテーマであります。しかし、医療事故がこれほど毎日の様に報道される現代において、まさに「温故創新」であります。なぜなら、『最も剛毅なる者は、最も柔和なる者であり、愛ある者は勇敢な者である』とは「高き自由の精神」を持って医療に従事する者への普遍的な真理であり、「他人の苦痛に対する思いやり」は、医学・医療の根本であると考えからであります。順天堂学祖の「仁」は日本全国の医学教育に発信される時でありましょう。故に、文科省も厚労省

も今回、後援になって頂いたものと理解しているわけであります。

順天堂の歴史は167年です。いま日本の医学部で学祖生誕200年を祝える大学はどこにあるかということです。多段階発がんを研究する病理学者にとって、ライフワークは「段階を超える原理の解明」です。順天堂が、さらなる発展をする為にも「お茶の水メディカルタウン構想：医療のオアシス」の提唱の時と思います。

きょうは、どうもありがとうございました。

*平成16年(2004)12月25日(土)

順天堂学祖佐藤泰然生誕200周年記念

於 順天堂大学有山記念館講堂